

第2回走水小学校跡地活用検討協議会 会議録

■日 時：令和7年6月23日（月）19：00～20：45

■場 所：大津コミュニティセンター 第4、5学習室

■出席者：協議会委員 出席：12名

FM推進課（事務局） 課 長 山中 理

主 査 土田 正和

主 任 岩崎 勝美

教育政策課 課 長 飯田 達也

危機管理課 課 長 小沼 裕司

大津行政センター 館 長 竹内 智巳

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 西尾真治（ファシリテーター）

■内 容：＜議題＞

学校跡地活用の検討

- ・走水小学校跡地活用案の検討について
- ・走水小学校地域説明会の意見について

概 要

1 開会

2 事務局挨拶

（FM推進課長）

こんばんは。お忙しい中、遅い時間帯にご参加いただきましてありがとうございます。前回の会議から4ヶ月近くが経過し、大変お待たせして申し訳ありません。

走水小学校につきましては、皆様のご理解、ご協力をいただきながら、馬堀小学校との統合をこの4月に行ったところです。また、先月（5月）には住民向けの跡地活用説明会を開催させていただくなど、地元の皆様をはじめ、多くのご意見をいただく場を設けさせていただきました。

さらに、学校の跡地の現状に目を向けさせていただければ、これまで学校開放で利用いただいていた既存のスポーツ団体などに、暫定利用として引き続きお使いいただいているほか、後ほど少し触れさせていただきますが、今後の長期的な利活用に繋がる可能性のある地域利用についても少しずつ動きが出ております。こうした新しい情報も本日の検討材料としてお伝えしていきますので、それらも踏まえつつ、協議会の皆様には跡地活用に関するご意見を多数いただければと考えております。

後ほど改めて紹介させていただきますが、今回の協議会から会議の進行を外部のファシリテーターの方をお願いすることにさせていただきました。

皆様から多様なご意見をいただけますよう、また分かりやすくお答えできるように、新しい体制で進めて参りたいと思いますので、改めてどうぞよろしくお願いたします。

3 ファシリテーター挨拶

皆様こんばんは。ご紹介いただきました西尾と申します。ファシリテーターとして皆様の意見交換の進行役をさせていただきたいと思っております。

私は市役所側の人間ではありませんが、外部のアドバイザーという形で横須賀市の公共施設の取り組みについては計画策定の段階から関わらせていただいておりますので、事情についてはある程度分かっていると思っております。

私の経歴を少し申し上げますと、民間のシンクタンクで研究員をしておりましたが、市役所が一定期間、民間人を採用できる制度があり、民間人の任期付任用で横須賀市とは別の市役所で職員を4年間ほどしておりました。その時は市役所の職員の立場で公共施設の問題に携わっていました。今は民間人、市民の立場ですので、どちらの立場も分かります。行政の職員としてこの公共施設の問題を進めていく時の立場や事情も分かりますし、市民として地域の一人としてどうしていきたいかということも分かります。これら両方をうまく繋いで良い形でこの話がまとまっていけば良いと思っております。

そのような形で進めていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様よろしくお願いたします。

4 議題

(1) 学校跡地活用の検討

(事務局)

事務局が資料の内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

① 走水小学校跡地活用案の検討 **資料1**

- 跡地活用の大きな方向性を「地域住民などが集うコミュニティ拠点としての機能」と「地域の活性化・賑わいに資する機能」としており、検討における4つの視点を示した。

視点1：土地に対する法的条件

- ・用途地域は住居系であり、建物の用途に制限がある。
- ・事務所や宿泊施設などの活用のほか、劇場やゴルフ練習場、カラオケボックスなどの遊戯施設や工場などの建物は、原則設置が認められず、規制緩和のための一定の手続きが必要となる。

視点2：施設の物理的な条件

- ・敷地面積は約9,500㎡、校舎と体育館を合わせた延床面積は約3,500㎡と広大であり、敷地の一部には地域で管理をいただいている「ほたるの里」がある。
- ・校舎と体育館は適切な修繕を行えば、目標耐用年数として今後30年弱は活用できる見込み。いずれも耐震補強済み。
- ・主なアクセスは自動車となるため、活用内容によっては駐車場の確保など対策が必要。国道からの大型車両の侵入は困難。

視点3：持続可能な運営

- ・施設の活用方法によっては大規模な改修や維持管理にコストが発生するため、事業収入を得ることや民間ノウハウの導入などにより、コストの縮減、質の向上につなげるアイデアも重要。

視点4：地域ニーズや既存機能への対応

- ・地域のシンボルであった走水小学校の跡地を今後のまちづくりにどう活かしていくかを考える視点。
- ・地域説明会などを通じて多様な意見や要望が寄せられており、こうしたニーズを踏まえて地域の魅力と活力の向上に繋げることが必要。
- ・避難所、投票所、スポーツでの学校施設開放など、既存機能の将来的な維持についても検討が求められる。

② 走水小学校地域説明会の意見 **資料2**

- 5月に開催した地域説明会において、会場でいただいたご意見と、意見用紙でいただいたご意見を合わせたものを分類別にお示ししている。資料の左側には地域説明会の概要、来場者数、意見の数・収集方法・収集期間等を記載している。
- 意見の分類・集計
 - ・商業、賑わい (25%)：陸上養殖、漁協と連携した魚や野菜の販売、道の駅、キャンプ場、カフェなどの活用。
 - ・自然、教育、歴史 (22%)：海や自然を学べる教育施設、臨海学校、走水の歴史資料室、学童保育、不登校児童の居場所としての活用。
 - ・防災、安全対策 (16%)：災害時の復旧拠点、津波避難台の設置、前面道路を含めた一体的な防災拠点としての活用。
 - ・町内会、地域 (13%)：町内会事務室、高齢者の居場所、学習室、図書室、コミュニティセンターとしての活用。
 - ・跡地活用以外 (9%)、懸念事項 (5%)、検討体制・経過 (5%)
 - ・その他 (5%)：暫定利用に関わるご意見、老人ホーム、住宅としての活用
 - ・個々の意見については資料2の3ページ以降を参照。

③ 暫定的な利用についての情報共有

- 現在、体育館とグラウンドを暫定的にスポーツ団体等へ開放しているが、横須賀市観光協会から、学校跡地活用の方針決定までの暫定期間を映画、ドラマ、テレビCMなどのロケ地として活用したいとの要望があり、市も前向きに検討している。
- このロケーションサービスは、既存のスポーツ団体や地域の活動に支障がない範囲での利用を前提とし、建物の補修や草刈りによる施設の維持管理軽減への寄与や、メディアを通じた地域の魅力発信の効果も期待できる。
- また、市民団体が行っている走水の自然を通じた体験型ワークショップ「海とミライのがっこう」の活動の一環として、走水小学校跡地を活用した実証実験（トライアル）が予定されている。
- その他、夏休み期間中に校舎や体育館で子どもを対象としたイベント開催などで利用したいという団体から要望があり、日程等の調整を進めていきたいと考えている。

【質疑・意見交換】

（ファシリテーター）

- 協議会は全5回ほどを1年間で行っていく予定だが、活用に向けたアイデアを各委員から多く出していただきたいというのが、本日、第2回目の位置づけとなっている。
- 実際には、できること、できないことが出てくると思うが、案の絞り込みは第3回協議会以降に行っていくこととし、まずは、制約条件などはあまり考えずにアイデアを多く出していただきたい。
- 初めに、資料1で「4つの視点」について説明があったが、これについて気になることや聞きたいことがあればご質問いただきたい。
- 資料1の視点1「土地に対する法的条件」について、走水小学校跡地は住居系との説明があった。宿泊施設などで活用するには一定の手続きが必要になるとのことだが、気になったことや聞いておきたいことなどはあるか。

（委員）

- 地域説明会では臨海学校や宿泊を伴う体験学習の場としてはどうかとの意見があったと思う。これらの施設は一般的なホテルとは全く異なるものだと思うが、こういった施設でも一定の手続きは必要になるのか。

（事務局）

- 教育的な施設については、現在学校であることから法的な制約は少ない。
- 一方で不特定多数の方が宿泊する施設となると、現状の用途地域（第一種中高層住居専用地域）では原則、認められない。
- これに対応するには、周辺住民から意見を聞いたうえで建築審査会の同意を得るなどの手続きを踏む必要がある。

（ファシリテーター）

- 機能によっては一定の手続きが必要になるとの話だが、逆に言えば一定の手続きにより、可能な機能や用途の幅が広がるものと受け取った。

（委員）

- 前回の協議会で旗山崎公園の利用も考慮に入れるとの話があったが、国道からの大型車両の侵入が困難な状況で、旗山崎公園を駐車場等で活用すれば大型車両の駐車も可能になると思うがどうか。
- 観光バスの受け入れなど、提案の幅が広がると思っている。

（事務局）

- 旗山崎公園の広場を整備することで、駐車場での活用の可能性はあると考えている。

（ファシリテーター）

- 視点2の「物理的条件」に話移ってきたと思う。小学校という大規模な施設で、敷地面積が9,567㎡と非常に大きい。また、建物の延床面積も校舎と体育館を合わせて約3,500㎡あり、今後も30年ぐらいは利用できる可能性があるとのこと。
- これだけの規模の施設を単独の用途で利用することは難しく感じるため、複合的な活用を考えていく必要があると感じた。
- 立地やアクセスの件で、この他にも聞いておきたいことはあるか。

（委員）

- 案として資料「走水総合きょういくセンター」を作成した。鴨川の道の駅「鴨川オーシャンパーク」のように、地域住民や市民がワクワクして気軽に集まる場所である。

- 沖縄の廃校では、ホテルが流行ったが、今はもう閑古鳥が鳴いている。また、最近、神奈川大学陸上部が廃校を使って陸上のトレーニングだけではなく、地域と連携した清掃などを行っている」とテレビで放映していた。
- そういった事例を参考にしながら、走水小学校の跡地を地域の物産販売やゆっくりできる食堂、地域活動拠点（町内会の集まりなど）、防災訓練の場として活用する。
- 教育施設としての利用も強調し、宿泊施設も整備する。震災教育の場としての活用、臨海学校の誘致（三浦グローバルエコヴィレッジのような教育プログラム）。地域資源（海洋資源）の活用。高齢者の居場所、ワークショップ、カフェ（オレンジカフェ）、ヨガ教室など多様な活動ができる場所。走水の方が働ける場所としても活用したい。

（ファシリテーター）

- 皆がワクワク集まる施設ということで、「教育」が「今日行く」に掛かっており、また行きたくなる施設という、コンセプトの分かりやすい提案をいただいた。
- このようなアイデアをいただいたので、ここからは「このような機能や施設があったら良いのではないか」といったアイデアをいただきたい。ピンポイントのアイデアや提案でも構わないので、ご意見をいただきたい。

（委員）

- 今いただいた意見について、規制緩和などのハードルはどれくらい高いのか、行政として困難なのか、あるいは地域から意見が出て本気になれば進められるレベルなのか。

（事務局）

- 活用の検討において実現性は重要であるため、資料1の視点を大事にしてもらえるとありがたい。
- 現時点でなかなか難しいと感じる活用案であっても、皆様の総意であれば、市として実現に向けた努力をしたいと思っている。
- 本日は、資料1の視点に整合しないから提案しないということではなく、アイデアレベルも含めてご発言いただき、次回までに実現に向けたハードルなどを整理のうえ、お伝えさせていただくイメージでいる。

（ファシリテーター）

- 地域と行政が本気になれば、ある程度ハードルの高い活用案であっても実現の可能性も見出せると感じるので、第3回以降の協議会で進めていければと思う。
- アイデアレベル、思いつきレベルでも良いとの話もあったが、本日はできるだけ可能性の幅を広げていきたいと思っているので、様々なご意見をいただきたい。

（委員）

- 資料1の5ページにある「既存機能への対応」については、先日の地域説明会では避難所、投票所を維持することは当然で、市で決めるのが筋との意見があった。
- スポーツでの学校施設開放はこれらより優先レベルは下がると思うが、現在も利用している団体や人数が多いことから継続すべき。
- 投票所も走水には他に適地がないと感じている。

（ファシリテーター）

- 現在の既存機能については、当然残すべきとのご意見をいただいた。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- 観音崎の県施設には横浜などから小学生が訪れているようだが、あそこは海岸だけで漁船はない。
- 一方で走水には漁船が多くあるし、漁師さんもいることから教育の場に非常に適している。磯で採れるウニなどの資源も豊富なので、臨海学校などで活用できると良い。

(ファシリテーター)

- 海という資源や漁師さんを大事にした臨海学校での活用というご意見をいただいた。
- 実体験でも別の視点でも構わないので、ご意見をいただきたい。

(委員)

- 私の小学生の娘は臨海学校などで三浦に行ったが、走水でやりたかったと言っていた。
- 以前は、走水小学校に他県の方が勉強に来られたと聞いており、走水小学校は様々なものが備わっているので、ぜひ臨海学校をやってもらいたいと思う。
- それと同時に、走水はこんなに学びの場が多いのに、地元の子どもたちがバスで学校に通い、走水を知らずに育っていくことが今後も増えていくと思うと寂しい。
- 跡地には他県の子どもたちに学びに来てほしいと思うが、走水に住んでいる子どもたちや馬堀、鴨居の子どもたちにも使ってほしいと思っている。三浦で臨海学校をやるのも良いが、走水を使う学校があっても良いと思う。

(ファシリテーター)

- 子どもの視点はとても大事だと感じる。臨海学校など学びの場として活用することに加えて、日常的に子どもたちが走水を学べる、あるいは体験できる施設や気軽に遊びに行ける子どもの居場所として使えると良いとのご意見として受け取った。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- 私は「校舎のない学校」をテーマに、走水の環境を学びの教材としたワカメの養殖体験やビーチコーミングなど、海を通じてワクワクを発見してもらえるような活動を行っている。
- 走水に残されている自然環境や文化は、首都圏だけを見ても本当に希少で、とても価値の高いものだと思っている。
- 産業（観光業など）も含めた複合的なアイデアで、子どもたちが育ち、産業も発展し、地域が元気になり、生き生きと生きられる文化を守っていける、そういった街づくりに繋がる活用をすべきだと思う。
- 地域も協力的であるし、子どもたちの教育の場としてとても可能性のある場所なので、地域のお祭りや子どもの教育に対するサポートなどを継続的に進めていくためにも、教育・文化・産業を融合させたアイデアで活用していくべきだと思う。

(ファシリテーター)

- 走水の自然環境だけではなく、そこに住んでいる人や育まれている文化も含めて、首都圏単位で見てもすごく貴重なものであるとのご意見だった。
- その中で、「産業」というキーワード、これまでなかったキーワードだと思うが、産業と教育・文化を複合させていくというご意見をいただいた。

(委員)

- 30年以上前に都内から走水に引っ越してきた。高速道路を降りてから走水までの海沿いの道はとても景色が良く、人を呼び込める要素は充分にあると思っている。
- 漁港も近く、魚が非常に美味しい。こういった海産物は都会の人々にとって魅力的だと思うし、観音崎から浦賀に抜ける道路も整備されていることから、観光資源として有益と感じている。

(ファシリテーター)

- 車で来ても景色が良く、魚が美味しい、外から人を呼び込める、そういったポテンシャルがあるのではないかというご意見をいただいた。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- これまで意見があった子どもを中心とした複合施設に大賛成である。
- それに加えて歴史の観点もある。走水神社はヤマトタケルノミコトとの結びつきが非常に強く、旗山崎はオトタチバナヒメが身投げした場所であるなど、歴史的なスポットがすぐ近くに存在している。
- 走水の歴史や民俗といった部分も素晴らしいものがあると思うので、そういった博物館的な要素も複合施設に取り入れ、素晴らしさをもっとアピールすることも必要だと思う。

(ファシリテーター)

- 歴史というキーワードでヤマトタケルのゆかりがあるというお話で、私も走水という地名自体に歴史的なものを感じさせるものがあると思った。そういう歴史・民俗も生かしていたら良いのではとのご意見だった。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- 昔の子どもたちは浜で遊んだり、磯で貝を採ったりしていたが、最近は密漁に対する規制でなかなかできない。昔は当たり前で毎日できていたことが今はできないので、そういった機会を提供できれば良いと思うし、漁協としてもある程度は協力ができると思っている。
- 何をやるにも予算が必要になる。最近、莫大なお金をかける市の計画を様々聞いているが、市は走水小学校の跡地活用にどの程度の予算を出せるのか。

(ファシリテーター)

- 予算や財政上の制約については次回以降の話になるかと思うが、現時点で何かあるか。

(事務局)

- 現時点では具体的な予算額や、いつまでに確保できるといった情報はお伝えできない。しかし、本日の資料1に記載させてもらったように、例えば、無料ではなく、ある程度の料金を取って運営するなど、収入の部分も想定できれば、市としても踏み出せるかどうかの検討がしやすい。

(委員)

- 秋谷老人福祉センター跡地の活用は非常に上手くいった例だと思っている。地域住民が使える施設と企業が運営する宿泊施設を併せて整備しようとしている。この認識に間違いはないか。

(事務局)

- 秋谷老人福祉センターはこの3月末で廃止したが、暫定的に半年間は小規模な形で利用できるようにしている。
- 風光明媚な場所にあるが、昭和50年頃に建築された旧耐震の建物で、耐震補強も行っておらず、残りの耐用年数や建物裏手のレッドゾーンを考慮すると、今後の活用は厳しい状況にあった。
- 市が耐震補強工事やリノベーションを行うことは財政的に厳しいことから、この3月末まで跡地を活用いただける事業者を公募し、応募のあった3社から1社を決定した。
- 活用提案の内容は、宿泊機能や地場産品の販売、入浴施設、喫茶コーナーなどで、事業者が耐震補強やリニューアルにかかるコストを負担してもらい、市は費用負担しない形で進めている。また、開設までは2～3年かかる見込みとなっている。

(委員)

- 秋谷老人福祉センターはもともと高齢者施設ということで、設備などがそれなりに整っており、宿泊施設に改修しやすかったのかなと思う。
- ロケーションサービスの説明があったが、これは市が関わっている動きなのか。それとも民間企業による活動なのか。

(事務局)

- ロケーションサービスは市が直接行うものではなく、場所をお貸しする立場である。
- 当然ながら、貸し出すにあたっては地域の利用に支障のないことを前提としている。
- 仲介役は横須賀市観光協会、市とは別の団体となる。観光協会では跡地活用の決定までの間の暫定利用として使いたい意向で、市としても前向きに検討している。

(ファシリテーター)

- お金を出してでもロケ地として活用したいニーズがあるということは、自然環境などを含め、走水小学校にそれだけの魅力があるからだと思う。
- 恐らく、財政的に厳しいことは間違いないと思うので、その中で収益を得られるような機能が入ってくると、より実現性が高まるのではないかと感じた。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- 走水の方々が収入を得なければいけないし、若い方だったらアルバイトでもよい。人がたくさん集まって、物産の販売などで走水の方々の働く場として活力が生まれるような施設が良いと思っている。

(ファシリテーター)

- 働く場、雇用の場の受け皿として活力の源になっていく施設が良いというご意見だった。

(委員)

- 走水地域では働く能力はありながらも、交通手段がなくて働けない高齢者がたくさんいらっしゃるのではないかと。
- シルバー人材の方が活躍できるような活用も含めて検討できると良いと思う。

(ファシリテーター)

- 身近に働く場所があれば、遠方まではなかなか通えなかった方々も働くことができ、活性化に繋がってくるというご意見だった。

(委員)

- 閉校後の走水小学校の維持費はどれくらいかかっているのか。

(事務局)

- 現在の走水小学校の維持管理費は年間約 500 万円である。
- 主な内訳は光熱水費であり、特に電気については建物規模から高圧受電契約となっているため基本料金が高く、また、法定点検等の費用もかかっている。

(委員)

- ロケーションサービスに貸し出すことによる市の収入は、500 万円の維持費に対してどれくらい得られるのか。

(事務局)

- 現時点ではロケーションサービスにかかる契約を結んでいないため明確ではないが、500 万円には到底届かないと思われる。

(委員)

- 走水小学校の体育館は予約が取れないほどの人気と聞いている。
- 地域のクラブチームの合宿で大津のグラウンドを借りて練習をしている事例もあり、体育館やグラウンドをすぐ使える条件であれば、様々なスポーツチームに使ってもらえるのではないかと思う。

(ファシリテーター)

- 臨海学校での活用案もあったが、体育館をうまく活用し、合宿所として活用するアイデアも確かにあると思う。

(委員)

- ロケーションサービスの話に戻るが、維持管理費をまかなう収入があるなら大賛成だが、そうではないとなると、地域や協議会が一生懸命に活用を検討している間に金儲けをしている企業があるとのイメージをもってしまう。
- 一方、検討のアイデアの現実性を高めるためにも、ロケーションサービスという選択肢はあっていいと思っている。
- ロケーションサービスは企業が儲けるためではなく、跡地を健全かつ持続的に活用するためのアイデアとして、活用する側が運営していかないと意味がない。
- 補足だが、走水小学校の規模の施設を貸す場合には、民間の相場では 1 日あたり数十万円の収入になると思う。

(ファシリテーター)

- 跡地施設の維持管理費をまかなう手法としてロケーションサービスが大きな収入になるとのご意見だった。

(委員)

- 教育はお金を持っている人だけのためにあるものではなく、なるべく無料にして平等に受けられるようにしたい。
- しかし、無料で運営することは難しいため、ロケーションサービスのような副収入を得ることで、金銭的に余裕がない方でも来てもらえるような教育的な活用が実現できれば良いと考えている。

(ファシリテーター)

- 運営方法については次回以降に議論することになるので、その際に深められれば良いと思う。

(委員)

- 収入があればそれに越したことはない。町内に入れば一番良いが、そうもいかないと思っている。
- 走水のPRとして映像が流れるということは、とても良いと思う。賃料はやりようによっては大きな金額になるとも聞いている。
- 校舎などの建物は普段使っていないと痛んでくる。そのあたりもロケーションサービスで使ってもらえると、メンテナンスも含めてお願いできると思うがどうか。

(事務局)

- おっしゃるとおり、建物は使わないと痛みが早くなる。特に海沿いという立地から他の学校に比べて痛みが早い。これまで学校で運営していた際には毎日のように窓開けや掃除がされてきたが、現在はそこまで行き届いていない。
- そうした状況にあって、今回のロケーションサービスでは観光協会からの使用料収入以外に、草刈りや照明器具の交換などの維持管理についても併せて提案を受けているため、施設管理の面からもメリットがあると考えている。

(委員)

- 「ほたるの里」の維持管理もできると良い。現状は地元の方たちが中心となって管理をされており、子どもたちも楽しみにしているので継続していきたいと思っている。

(委員)

- ロケーションサービスの件については、企業側に維持管理をお願いできるというメリットはあるが、一方でデメリットもある。
- デメリットの例として鎌倉高校前駅が挙げられる。大勢の観光客が訪れてしまい、近隣住民は大迷惑をしている。PRの仕方によっては、そういったことも起こり得るため、撮影地は公開しないほうが良い場合もある。
- 地域の魅力を発信するという意味ではありがたいと思うが、逆効果になってしまうと、近隣に迷惑をかける可能性もある。小学校の前の道路に路上駐車されて通れなくなってしまう恐れもあり、ましてや普段は人が来ないところに、知らない人が来るとなると、地域として不安に感じると思う。
- メリットばかりに目が行きがちになるが、デメリットがあることも知っておくべき。

(ファシリテーター)

- 地域として、しっかりと守り育てていく観点を持ちながら進めていくことが大切であるとのことご意見として受け取った。

(委員)

- これから30年は使える建物なので、今年度の協議会だけですべてのプランを決定してスタートさせるのではなく、段階的にオープンさせつつ、定期的な見直しにより改善していけば良いと思っている。

(ファシリテーター)

- 最初からフルセットではなく、段階的に進めていく、毎年見直しをしながら改善していくとのことご意見だった。

(事務局)

- おっしゃるとおりで、協議会でご検討いただいたものは、できるだけ実現できるように進めていきたいと思っているが、それがゴールではなく、その後の経過を観察していくことも市の取り組みとして必要と思っている。

(ファシリテーター)

- 実施して初めて分かるデメリットもあると思う。活用の効果を常に検証しながら、地域がきちんと守られたうえで活性化していくように改善していくことは重要だと思う。
- その他にご意見はあるか。

(委員)

- 走水小学校は私たちの先祖や小学校に携わってきた方々が大事にしてくれたからこそ、151年もの間、続いてきたと思っている。その歴史を引継いで残せる空間を跡地に残してもらいたいと思っている。

(ファシリテーター)

- 子どもだけではなく、大人も含めて歴史をきちんと繋げていく場所であってほしいとのご意見をいただいた。

(委員)

- 走水小学校の跡地活用の検討にあたっては、協議会として予定されている回数で本当によいのかという気持ちがある。また、我々の個々のアイデアだけでは本当に良いアイデアが生まれてこないと思うし、走水小学校に対しては地域の内外に思いを持った方がたくさんいらっしゃると思う。
- その中で私たちが中心となって「走水ミライミーティング」というものを先日からスタートさせた。これは10年後の走水を想像しながら跡地活用のアイデアを募り、それを実証実験的に実行してみる。このような取り組みを繰り返すことで、アイデアをより現実的に捉えていくことができるのではないかと考えている。
- まずは今年の夏に、イメージを共有するためのイベントを開催したいと考えている。
- そこで得られた地域や参加者の声を現実的な結果として、この協議会に提案できればと考えている。
- ミライミーティングは、今後、何度も開催する予定なので、協議会の皆さんにもぜひ参加いただきたいと思っている。

(ファシリテーター)

- アイデアをすぐに実行する姿勢は素晴らしいと思う。ユーザー視点から課題を発見して解決する、いわゆるデザイン思考だと思うが、そのアイデアも協議会で共有いただき、議論を広げたり深めたりできれば良いと思う。

(委員)

- 私は走水の出身ではないため、歴史についてはよく分かっていないところもあるが、走水に居住して本当に住みよいところだと実感しており、何か協力できることはないかと思っている。
- 跡地の検討をきっかけに走水が賑やかになってくれることは非常に良いことだが、一方で走水の子どもたちが馬堀小学校に通うようになり、欠落した機能があるのではないかと感じている。

- 通学時間が長くなったことで、学校の図書室で本を読んだり、友達と遊びに行きたいがそれができなくなってしまった子どもがいると思う。
- 走水の子どもたちは今後もこの状況が続くので、そういったことを補うようなプランにするべきではないかと考えている。

(ファシリテーター)

- 子どもを中心とした複合施設という形で議論が進んでいるが、走水の子どもたちにもっと思いを寄せて機能を考えていくべきだと感じた。

(委員)

- 今のご意見はごもっともで、走水の子どもたちが馬堀小学校に通うようになったことで、以前は自宅の2階の窓を開けておくと子どもの声が聞こえてきたが、今は聞こえなくなり、寂しく感じる。

(委員)

- 子どもたちが走水地域から外に出て行ってしまっている。その結果として小学校がなくなってしまったということもあると思う。
- 町内に空き家が増えている。ロケーションサービスのデメリットもあるとは思いますが、走水地域に住みたい、残りたいという人が増えることで地域全体が活性化するような施設ができれば良いと思っている。

(ファシリテーター)

- 市も跡地活用の大きなコンセプトとして、「地域住民などが集うコミュニティ拠点としての機能」と「地域の活性化、にぎわいに資する機能」を掲げている。地域の活性化や賑わいがあり、若い人たちが住み続けたいと思ってくれるような、地域の拠点になると良いと思う。

(委員)

- 走水の町にはかつて、歩ける範囲に生活に必要な店舗がすべて揃っていたと聞いた。
- 学校跡地がどういう場になるかと同時に、町自体の活性化も考え、何かやりたいという人がチャレンジできる場にすることで、発展が生まれると良いと思う。
- 例えば、横須賀中央の上町地区は若い人が頑張って新しい店を作っている。仲間が集まれば、相乗効果で町全体が盛り上がっていくと思うので、そういった関連性も視野に入れたアイデアが良いと思う。

(ファシリテーター)

- 町全体の将来像を見据える中で、どのような機能が必要かを考えることは、かなり本質的な検討になると思う。
- 学校施設でのチャレンジショップ的な試みが成功したら、実際に地域でやっていくなど、町との繋がりを考えていくと確かに発想が広がると思う。

(委員)

- 資料2の「S」「H」「K」の記号に意味はあるか。

(事務局)

- 「S」は説明会、「H」は走水、「K」は協議会を意味した附番である。

(委員)

- 上地市長が再選され、今後4年は上地市政が続くことになるので、跡地活用の方向性は継続と思っている。

- 浦賀や久里浜、追浜あたりに重点を置いていると感じており、走水は軽視されているイメージがある。走水は地域の活性化をみんなで一生懸命考えているということをFM推進課の方からもアピールしてもらえるとありがたい。

(委 員)

- 校舎内の厨房は、まだ使用可能なのか。

(事務局)

- 給食室は残っているが、プロパンガスは取り外している。厨房器具が使用可能かどうかは、正確には把握していない。

(委 員)

- 設備は使わなくなると、すぐに壊れてしまう。使えるのであれば、その設備を使って地域の物産やレストランができるとよいとの意見もあった。

(委 員)

- 企業誘致についても考えてよいと思っている。
- 例えば、走水は新鮮な水があるので、牛乳やお酒などの製造に向いていると思う。規模は小さいが、企業誘致で雇用が生まれて地域が活性化し、結果的に子どもが増えると思う。

(事務局)

- 跡地活用の検討において、民間企業のノウハウを活用する視点はあっても良いと思っている。
- 民間ノウハウの活用にあたっては、企業誘致が先ではなく、まず協議会で活用方法を検討いただき、どのような使い方が望まれるのかを把握したうえで、これを実現するのに適した民間企業があるのであれば、民間に任せるという選択肢もあると思っている。

(ファシリテーター)

- 本日もいただいたアイデアについては、次回、事務局からフィードバックをしていく。
- 活用案のキーワードをまとめると次のとおり。
 - ① 子どもを中心とした複合施設
 - ② 臨海学校や学びの場
 - ③ 子どもの居場所
 - ④ 産業・観光・物産など働く場
- また、活用を検討するうえで考慮すべき視点についても次のような意見があった。
 - ① 活用の中で収益を得られると、より実現しやすくなる
 - ② ロケーションとしての活用や地域のPRに活用
 - ③ 走水小跡地の拠点だけで話をするのではなく、町全体の活性化へつなげていく
 - ④ 企業誘致の視点
- 今回いただいた幅広い視点の中から次回以降、これを現実的にできるとしたらどのようなものになっていくか絞り込んでいく議論を進めていきたい。
- 本日の意見交換はこれで終了とする。

(事務局)

- 事務連絡となるが、第3回の協議会については、8月以降の開催を予定している。

5 閉 会

(FM 推進課長)

- 本日は多様な意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見は市のホームページ等で公表させていただく。また、今回いただいた意見や提案については、実現可能性も含めて市で情報を整理して、次回の会議に向けて具体的な検討ができるよう準備を進めていきたい。
- これで本日の会議を終了する。

以 上